

第2回 東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

議事録

日時 平成30年10月25日（木）
午後2時から午後4時半まで
場所 豊橋市役所4階 東41会議室

■次 第

1. 平成31年度の取り組み（案）について

■発言要旨

発言者	要旨
1. 平成31年度の取り組み（案）について	
～事務局説明、質問～	
(1) 基本目標1 魅力あふれる地域をつくる	
松井会長	・東三河ブランドショップ推進事業、「東三河ブランド」認証事業について、H31年度以降規約変更を行い事業実施とあるが、H31年度に事業をやるということか。 ・東三河観光PRポスターのデジタルサイネージは、H31年度はやらないのか。やらない場合の理由はなにか。
事務局	・事業が具体化されれば規約変更を行い、実施をするが、課題が多い事業のため、H31年度からの事業実施は難しいと感じている。 ・デジタルサイネージはH30年度も行っていない。H29年度のみ行ったものである。
鈴木（照）委員	・ICTを活用した魅力発信事業は、ターゲットを20代から40代の女性としているが、ブランドショップはターゲットを絞り込んでいるか。
事務局	・事業計画においてターゲットをある程度まで絞ったが、その計画に対して市町村長会議等で意見が多く寄せられており、再検討することになっている。
岩瀬委員	・再検討になったものについて、いつまでに結論を出し、どのように進めていくのかが分からない。タイムスケジュール

	ルが必要ではないか。
松井会長	・協議会で出された意見は、どのように会議に反映されていくのか。
事務局	・担当課長会議、副市町村長会議、市町村長会議と順番に報告していく。
神谷委員	・各事業の進捗状況が何%なのか分からない。 ・雑誌編集タイアップ広告の掲載にある小冊子の制作は、誰がどのように作るのか。
事務局	・小冊子は委託業者（月刊 Cheek の発刊会社）が制作する。実際に掲載された記事を抜き刷りし、制作予定。
神谷委員	・P R 動画記事は誰が制作するのか。
事務局	・ウレぴあ総研が制作する。
（２）基本目標２ 活力ある地域をつくる	
岩瀬委員	・豊橋市が香港で開催されるフードフェスティバルに出展するが、東三河広域連合として海外への進出を考えているのか。
事務局	・現時点では考えていない。
（３）基本目標３ 「ひと」が流入し定着する地域をつくる	
神谷委員	・「まじカフェ」の企業募集方法と、応募企業者数を教えてほしい。
事務局	・東三河地域に本社、支社がある製造業や地場産業の企業を中心に案内を送付した。 ・現在は、豊橋技術科学大学での参加企業を募集し、90 社ほどの応募があった。また、今後開催する愛知大学等への参加を希望している企業が 100 社ほどある。
安彦委員	・学生に対しての告知はどのように行ったのか。また、申込状況はどうか。
事務局	・大学のキャリアセンターを通じた紹介や、Facebook 等で告知をした。地元大学だけでなく近隣大学にも案内を送付している。 ・現時点の申込状況は延べ 90 名ほど。
高橋委員	・東三河の企業とのマッチング支援事業の対象大学に「東三河地域の出身者が多く在学する大学」とあるが、どのように把握するのか。
事務局	・東三河地域の高校が公開している情報や、大学や委託業者が持つ情報を活用する。
（４）基本目標４ 安心して暮らせる地域をつくる	
神谷委員	・資料に掲載しているのは一部の事業か。

	・徘徊高齢者家族支援サービス事業など、広域がPRしている事業は他にもあるため、掲載する事業の選び方に配慮してほしい。
事務局	・掲載事業については、統合したことによりサービスが向上したものを載せている。
鈴木（康）委員	・「広域連合」という名前の周知がされていない。
～意見交換～	
（１）基本目標１ 魅力あふれる地域をつくる	
松井会長	・東三河ブランドショップはやるべきと思うか。 ・銀座などの一等地にブランドショップを開設するよりも、人を東三河に連れてくるためにお金を使うほうが、ブランド価値が上がると思う。
高橋委員	・レストランバスなど着地型観光プログラムを東三河で展開するブランド発信の方法もある。
事務局	・銀座などの一等地でブランドショップをやることは、費用の問題などがあり、現状では難しいと思っている。
鈴木（照）委員	・豊橋市が出展している「まるごと日本」ではだめなのか。
鈴木（康）委員	・ブランドショップではなく、物産展ではだめなのか。
事務局	・目的はあくまで「ブランド」をつくることであり、そのための手法をいろいろと検討していきたい。
松井会長	・なにを売る予定なのか。なにをブランディングするのか。
事務局	・東三河の産品だけでなく、産品を含めた東三河地域全体をブランド化していきたい。東三河の認知度を上げたい。
都築委員	・各市町村の東三河への思い（目指すべき目標）がバラバラで、まとまっていないと思う。みんなが同じ方向を向く必要があるのではないか。 ・首都圏で東三河と聞いても分からない人が多い。
松井会長	・「首都圏住民を対象とした東三河認知度調査」のなかで、東三河としてイメージできるものは「自然」という回答が高い。ここを差別化し、PRすべきである。
岩瀬委員	・ブランドショップを開設したとして、どのように人を呼び込むのか。来てくれる人を待つだけでは、費用対効果がない。 ・止める決断も必要ではないか。
事務局	・銀座は全国のアンテナショップの集積地の１つである。アンテナショップ巡りをする人にアピールする。
安彦委員	・どのように東三河を売りたいか、どう思われたいか、どう思われているのか、もう１度考える必要があるのではない

	いか。
栗田委員	・名古屋で知られているものでも、首都圏では数パーセントと知られていないことに驚いた。この知名度では、銀座にブランドショップを開設しても難しいのではないかな。 ・豊橋駅に掲出されている観光PRポスターがインパクトあって良い。名古屋駅でも掲出してもいいと思う。 ・企画が面白いこと、分かりやすいことが必要だが、マスコミ等はどんどん活用すべきである。
松井会長	・ブランドショップ推進事業は委員全員反対である。 ・第三者から東三河地域の売りはなにか、ブランドにできるものはなにか、意見を聞くところから始めるべきである。
(2) 基本目標2 活力ある地域をつくる	
松井会長	・DMOに広域連合はどのように関わる予定なのか。
事務局	・人的支援もしくは財政的支援になると思われる。
安彦委員	・研究会ワーキングの報告書はよく出来ている。 ・DMOを設置することによるKPIの設定に対しどのような活動をしたのか、今後どのような活動をするのかを明確にしなければ認可はされないし、負担金の額や人的配置などに理解が得られない。
事務局	・各市町村の観光協会とDMOの役割の明確化も必要。
松井会長	・物産展開催事業について、H31年度も愛知県内のみで、首都圏では開催しないのか。 ・イオン岡崎南店の集客状況はどうだったのか。
事務局	・愛知県内での開催を足がかりに、首都圏で開催していきたいと考えている。
都築委員	・来場者数は悪くはなかった。運動会の時期と重なったため、7日(日)は通常のイオン岡崎南店の集客力と比較すると少ない印象があった。その代わり6日(土)夕方の集客が多かった。
松井会長	・バイヤーとの商談会開催事業はH31年度はやらないのか。
事務局	・H31年度実施は検討していない。
(3) 基本目標3 「ひと」が流入し定着する地域をつくる	
松井会長	・インターンシップフェアへの出展支援は、具体的になにをするのか。 ・東三河での仕事や暮らしの魅力についての紹介は誰がするのか。
事務局	・出展支援については、企業がブースを出展する際の補助を考えている。

	・ブースの出展方法（各企業のブースなのか、東三河としてブースを設けるのか等）については、検討中である。 ・東三河の紹介ブースを設ける、もしくは出展企業の方に企業案内だけでなく東三河での魅力を話していただくことで検討はしている。
松井会長	・企業紹介は企業が行うし、合同説明会に学生を集めることは商工会議所が担うべきである。行政（広域）は東三河の魅力を紹介することに重点をおいてもらいたい。 ・モグジョブを運営する株式会社タスキのように、縁もゆかりもない豊橋市に I ターンをしている人もいる。なにか魅力があるから I ターンをした。その魅力を発信する支援を行政に担っていただきたい。
岩瀬委員	・出展支援の企業の選択をどのように行うのか。 ・首都圏住民を対象とした東三河認知度調査の対象者（母数）は何人か。今後も調査は継続するのか。 ・どのプロモーションにより認知度の数値が向上したのか、分析はしているのか。
事務局	・認知度調査の対象者は 500 人で、20 代、30 代、40 代、50 代、60 代以上で、男女比を均等に行っている。 ・プロモーションによる効果は、個別にアンケートをとれるわけではないため検証はできていない。
高橋委員	・東三河にある 4 大学に通う学生で、東三河の企業に就職した人が何人いるのか、実態を把握しつつ施策を進められるといいと思う。 ・三遠南信にはなるが、16 大学の 4 年生約 4,200 人に行ったアンケートによると、地域内での就職が約 37%であった。6 割以上の学生は地域外に就職してしまう。
安彦委員	・小中学生を対象とした地域教育（例：東三河の産業を紹介する）を行ってほしい。小中学生に地元企業のイメージを植え付けることが必要ではないか。
神谷委員	・豊川市の全 15 中学校で、どのようなまちが良いのか、イメージをもっているのか、自分たちが出来ることなどを聞いている。 ・シビックプライド（自分のまちの誇り）の醸成を広域連合で行うべきである。次世代の視点による、まちづくりプロジェクト、まちづくりのアイデア募集を行ってはどうか。 ・小さい頃からシビックプライドを擦り込むことが必要ではないか。

松井会長	・若い世代に対して、いかに東三河地域の誇りを高めることができるかという視点で、広域連合がなにを出来るのかを考えてほしい。
(4) 基本目標 4 安心して暮らせる地域をつくる	
松井会長	・介護保険事業は順調にすすんでいるか。
事務局	・様々な意見も寄せられているが、各市町村窓口で対応をしている。
神谷委員	・広報誌が年2回しかないこともあり、東三河広域連合が周知されていない。 ・広報誌のデザインが悪い。QRコードを各市町村の広報誌に掲載し、広域連合や介護保険事業について周知を図ってはどうか。